



新米

<「お米と若殿様」あらすじ>

昔々、お城に暮らすお殿様の子ども、若殿様がありました。やんちゃな若殿様は、遊ぶことが大好き。ごはんの時間も遊ぶことばかり考えていて、勢いよく食べ、一目散に外へ飛び出して行きます。お茶わんにごはん粒がたくさん残っているのに…。

ある日の夜、若殿様は不思議な夢を見ました。

「私は、ニギノミコト。あまてらすおおみかみ天照大御神の孫である。そなたは、なぜごはんを残すのじゃ!」

ニギノミコトは、お米が日本の大切な食べ物であること、お米一粒に七人の神様(土の神、風の神、雲の神、水の神、虫の神、太陽の神、作り手の神)が宿っていることを教えてくれました。

「特に、大変なのは作り手の神じゃ。米という漢字は、八十八と書く。これは、お米を作るまでに八十八の手間暇がかかることからできた字じゃ。」

お米の中の七人の神様が一番うれしく感じるのは、たくさんの手間暇をかけて作ったお米をよく味わい、おいしく残さず食べてもらった時だということを教えてもらいました。

若殿様は、今までごはんをよく味わっていなかったこと、ごはん粒を茶わんに残したままだったことを反省し、七人の神様に感謝の気持ちを込め、おいしくごはんを食べるようになりました。

日本では、稲作りや田んぼに関わるお祭りがたくさんあります。昔から大切にされてきたお米。米どころ・新潟に暮らす私たちも、大切に、おいしく味わっていきたいですね。

<献立例>

新米を使った
おむすび など

